

ガバナー月信はこちら↓
最新号から過去の分まで
ご覧頂けます。



2026-27年度 第2650地区スローガン

「新しい扉を開く」

ー 成長と持続のバランスをととのえる一年にー

第2650地区〔1961.3.28創立〕

YAMATOTAKADA ROTARY CLUB

クラブHP <http://yamatotakadarc.org/> アドレス ytrotary@abelia.ocn.ne.jp

地区HP <http://rid2650.gr.jp/> Facebook <https://www.facebook.com/yamatotakada.rc/>

例会日時：毎週火曜日 12時30分 例会場所：経済会館 3階大ホール

事務所：〒635-0095 大和高田市大中 106-2 経済会館 4階 TEL 0745-52-4366 FAX 0745-23-3823

会 長	辻 修
副 会 長	杉 垣 輝 樹
幹 事	藤 井 宏 典
会報・資料委員長	堀 内 邦 郎

第13回(通算3093回)2026年(令和8年)10月27日号

本日の例会(10月27日)

米山奨学生卓話

チャレンスック・スパポーン 様

次回の例会(11月10日)

ガバナー公式訪問
国際ロータリー第2650地区
2026-27年度ガバナー

平野洋一 様

10月20日の例会報告

会 長 の 時 間

今年度も4か月が経過いたしました。各委員会の委員長様はじめ、しっかりと活動を行っていただき、ありがとうございます。本日は卓話の講師として奈良女子大学の前川佳代先生にお越しいただいております。本日の卓話にちなんで頂いた、デザート甘葛煎を使ったメニューですが、ほのかなほんわかした甘さかなと思ったのですが、結構甘みが強く驚きました。平安の昔には氷の蜜としてかけたとのことで、1000年以上前からこういう食文化があったことにはびっくりいたしております。

それから、本日は米田常彦ガバナー補佐にもお越しいただいております。昨年以來、京都でのリーダー研修等でお世話になっておりますが、本日もクラブアッセンブリーでいろいろとご指導を賜れたらありがたいと思っております。各クラブを回られた上での当クラブとの比較など、忌憚のないご意見を頂戴し、これからのしっかりとした奉仕活動等につなげていきたいと思っております。

幹 事 報 告

◎クラブアッセンブリーのご案内

10月20日(火)13時45分から7階中ホールにて

◎第5回定例理事会のご案内

10月27日(火)11時から4階会議室にて

ゲ ス ト

前川佳代様(奈良女子大学協力研究員 卓話講師)

米田常彦様(第2650地区ガバナー補佐)

誕 生 日 祝

村島靖基会員(10月26日)

創 業 記 念 日 祝

杉垣輝樹会員(10月26日)

委員会報告及びその他報告

○趣味の会委員会舞芸会 鶴山洋子世話人

本日は映画のご紹介です。奈良RCの中野様から招待券をいただいておりますので、ご興味のある方には映画のご案内と一緒に招待券をお渡しさせていただきます。

○趣味の会委員会 白井健雄委員長

10月16日(金)、奈良県下RC親睦ゴルフ大会に、我がクラブから9名参加させていただきました。ジュニアの部で杉村会員、シニアの部で村野会員が2位に入るといふ大活躍もありまして、団体戦において見事優勝できました。ありがとうございました。

第2回趣味の会ゴルフコンペを12月10日(木)秋津原ゴルフクラブにて開催いたします。同日夕方から忘年会も行います。どちらか一方のご参加も可能ですので、ぜひお越しください。

○當麻地区情報集会 吉川利幸世話人

10月27日(火)に情報集会を辻甚にて行います。スケジュールのご確認をお願いいたします。

○管理運営委員会 杉垣輝樹委員長

先日の第1回クラブフォーラムでは、皆さん方から本当にたくさんの要望や提言を各委員会に対していただきました。健康管理委員会と出席委員会はお答えができましたが、親睦委員会、プログラム委員会、ニコニコ箱委員会、趣味の会委員会からのお返事は2回に分けて委員長から発表をしていただきます。

ニ コ ニ コ 箱

・ニコニコにご協力いたします。

第2650地区ガバナー補佐 米田常彦様

・米田常彦ガバナー補佐様、本日のクラブアッセンブリー、良きご指導の程お願いいたします。

辻 修会員

・米田ガバナー補佐をお迎えいたしました。本日はよろしく願います。藤井宏典会員

・米田ガバナー補佐をお迎えして。

甲村侑男会員 鈴木勝士会員 脇本吉清会員

樫根正起会員 河村憲一会員 喜多輝昌会員

・前川さん、ようこそ大和高田RCへ。あま〜いお話をお願いします。木下庄司会員

・米田ガバナー補佐・奈良女子大協力研究員前川様をお迎えして。

池木啓仁会員 杉垣輝樹会員 松村裕玄会員

吉川雅章会員 丸野正徳会員 瀧本栄一会員

高木美香会員

4つのテスト〔言行はこれに照らしてから〕

1. 真実か どうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるか どうか

・米田ガバナー補佐・奈良女子大協力研究員前川様をお迎えして。誕生日祝を頂いて。

村島靖基会員

・先日のコール輪音発表会で酒本先生に大変お世話になりました。

中堀克己会員

・コール輪音発表会にて無事歌うことができました。

酒本将稔会員

・皆様の応援のおかげで県下ゴルフコンペ2位に入賞しました。

村野淳二会員

・県下ゴルフコンペ団体戦、杉村さんと村野さんの大活躍で優勝しました。ありがとうございました。

川村英亮委員

・世古さん、高木さん、大変お世話になりました。

牧浦 徹会員

・前回の例会で結婚祝を頂き、ありがとうございました。

松倉圭吾会員

卓話「古代のスイーツ『甘葛煎(あまづらせん)』

と『いもがゆ』のお話」

奈良女子大学 大和・紀伊半島学研究所

古代学・聖地学研究センター・協力研究員

前川佳代 様



私は源義経が大好きで歴史の世界に入りました。義経が食べていたものに興味を持って食を研究するようになり、今は奈良に伝わる古代の菓子を再現して、味覚で古代と現代をつなぐことを目標に活動しております。

本日は、蜂蜜のように琥珀色をしたシロップである甘葛煎と、大和芋を使った芋粥を古代スイーツとしてご紹介いたします。

甘葛煎は、ツタの樹液を煮詰めたものです。ツタは冬になれば甘い樹液をたくわえます。そういうことを古代の人は知っていました。詳しくは、2021年に『古典がおいしい！ 平安時代のスイーツ』という本を上梓しておりますので、そちらもぜひご覧ください。

何でもかんでも古代に食べられていたものを古代スイーツとは呼ばず、ちゃんと歴史の資料とか、古典文学など典拠に基づいて、現在入手できる材料で再現した菓子のことをそう定義いたしております。

奈良時代に食べられていた古代スイーツは、大陸から伝わった点心に近いものであったようです。正倉院文書などにも載っております。平安時代になりますと、和菓子に少し近づいてきて、今日お話をいたします芋粥でありますとか、椿餅、亥の子餅など、和菓子屋さんに行きましたら見かけることもあるものになってまいります。

奈良時代や平安時代には、年中行事として、無病息災を願い、節句の日などにお菓子をいただく風習があったようです。平安時代に清少納言によって書かれた枕草子には、甘葛煎をかき氷にかけて食べていたという記述があります。削った氷に甘葛煎というシロップをかけて、金属製のお碗に入れて、銀のさじで食べるという、上品なもの、高貴なものとして紹介されています。甘葛煎について書かれた最古の資料は、平城京の長屋王跡から見つかった木簡です。恐らくは平城遷都以前から甘葛煎は食べられていたと考えられます。

この甘葛煎は、全国から奈良や京の都に菓子として運ばれたことが分かっています。北は出羽の国、南は太宰府や薩摩の国から運ばれていたという記録があります。

甘葛煎は、かき氷にかけたり、お菓子に入れたり、いわばメープルシロップとか蜂蜜などと同じ使われ方をしておりました。ほかには、食べ物以外ですと、お香や丸薬のつなぎとしても使われており、贈答品として唐の皇帝に献上されたりもしておりました。

こうして利用されていた甘葛煎ですが、中世、戦国時代ぐらいを境に、砂糖が入ってくるにつれてなくなってしまったようです。江戸時代になると、何が原材料でどうやって作るのかも分からなくなってしまいました。

甘葛は、字のように甘い葛ということなので、甘い水性植物というヒントしかありませんでした。ですが、今では研究が進み、甲子園などで見かけるブドウ科のツタであると考えられています。私も、ツタは全国に分布し、糖度も非常に高いことからこの説が正しいと考えています。北九州市の甘葛煎研究家の故石橋顕氏から、ツタの樹液を使った再現方法を習いまして、今も作り続けております。

ツタの糖度は、夏には0.1%程度ですが、冬になると20%を超えることもあります。これは凍結しないように糖度を増しているからだと考えられています。冬野菜がおいしいのと同じ原理です。

甘葛煎の作り方は、ツタから樹液を取り出して煮詰めたものになります。ステップとしては非常に簡単ですが、とても大変な作業です。遠心力を使って取り出した樹液をどんどん煮詰めていきます。糖度が70度を超えるとカビの発生を防ぐことができます。

甘葛煎は非常に甘いですが、口に含むと甘さがすっと消える、そういうちょっと不思議な甘味料で、これはほかのどの甘味料にも該当しない特徴です。ですので、この味を再現して奈良の名物にしたいと思いました。2011年に最初に再現をしたときには、果糖、ブドウ糖、ショ糖を定量分析し、1対1対3という割合で再現してみました。しかし、これだけではその特徴が再現できません。そこで、2023年には、どうもポリフェノールであるタンニンが甘さを相殺しているのではないかという推測に基づき、柿渋を入れましたところ、すっと消える感覚を再現することに成功しました。この甘葛商品を使って、かき氷や芋粥を作っております。

芋粥といいますと、芥川龍之介の『芋粥』という作品が有名ですが、その原点は平安時代の今昔物語集にあります。ここには、ツタの樹液で、薄く削ぎ切った芋を軽く煮た料理が出てきます。鎌倉時代のレシピですと、「甘葛1合には水2合ばかりで煮るなり」と書いてあります。本日の芋粥も同様に再現しております。

芋粥は砂糖水やメープルシロップ、蜂蜜などを代用しても作れる滋養満点の食べ物です。私は「古代スイーツで歴史を食卓へ」ということを提唱しております。古代から食べられていたものは、添加物や農業に悩む現代人にとって、現代の食に取り入れることのできる、文化と伝統を感じる食品だと思います。食卓を通じて古典文化に興味を持っていただく意味でも、このような歴史食の体験をお勧めしております。

クラブアッセンブリー

会長挨拶

辻 修会長

例会に引き続きお集まりいただきありがとうございます。例会の挨拶でも申し上げましたが、米田ガバナー補佐からは、昨年のリーダー研修等でいろいろなご指導、ご助言をいただいております。おかげさまで、7月から約4か月がたち、各委員会の委員長を中心に、順調に活動が推移いたしております。

ただ、気がかりなのは、新しい会員の入会がなかなか思うようにはいっていないということです。今年度は残りまだ8か月ほどございますので、今後とも会員増強にしっかりと力を入れていきたいと思ひます。

本日は奈良第2グループでは最終のクラブアッセンブリーということでございます。他クラブの情報を共有していただいたり、比較していただきながら、大和高田RCに対し、ご意見、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ガバナー補佐挨拶

米田常彦ガバナー補佐



クラブアッセンブリーにお招きいただきまして本当にありがとうございます。辻会長におかれましては、7月からすばらしいスタートを切っておられ、心より敬意を表します。前年度の6月8日は日程上、慌ただしくご挨拶するにとどまりましたので、本日は改めて自己紹介をさせていただきます。

私は橿原RCから参りました米田常彦でございます。生まれは高取で、育ちは大阪でございますが、実は大阪ではなかなか「こめだ」と呼んでもらえないので、もう「よねだ」で通しております。ただ、戸籍は「こめだ」でございます。橿原市でも「よねだ」と読みますので、生まれました高取辺りでそう読むようです。

仕事につきましては、3つの工場で一般医薬品を製造しております。お医者さんで処方する薬ではなく、薬局やドラッグストアで販売させていただいております。売上の8割までがドラッグストアです。今年で73期の会社ですが、次に息子が控えていますので、そろそろ継承する時期を考えないといけななと思っております。

私は昭和33年生まれの68歳で、ロータリー歴は22年になります。大和高田RCは船木会長年度であったと思いますが、10年前、橿原RC60周年の際の会長をさせていただきました。現在は奈良第2グループのガバナー補佐として、各クラブを回っております。その中で改めて思ひますのは、やはりロータリ

ーというのは各クラブが主体であるということです。地区には地区の方針がございますが、各クラブには歴史と特色があり、それぞれに文化を築かれています。そういった特色の部分を非常に大切にしながら、それぞれのクラブの良さを引き出すようなお手伝いをさせていただきたいと思ひます。

辻会長、藤井幹事から「ご指導を」というお言葉がございましたが、上から申し上げるのではなく、共に一緒になって各クラブがいい方向に行けるようなお手伝いをできればなと思っております。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

本日は11月10日のガバナー訪問に向けての協議会でございます。大和高田RCはすばらしいクラブですので、本日の協議を元にガバナーによりご報告ができるものと考えております。本日はよろしくお願いいたします。

クラブ概況報告

藤井宏典幹事

地区委員報告

- 地区会員増強拡大委員会
- 地区財団資金推進委員会
- 地区職業奉仕委員会
- 地区職業奉仕委員会

鈴木勝士委員
喜多輝昌委員
村島靖基委員長
川中教正委員

委員長報告

A班

- 会計
- S.A.A.
- 会員増強委員会
- 職業分類委員会
- ロータリー情報委員会
- 公共イメージ委員会
- 会報・資料委員会
- 雑誌・IT委員会

林田光治会計
當麻泰己S.A.A.
山田 博委員長
鈴木勝士委員長
林 輝一委員長
池木啓仁委員長
堀内邦郎委員長
喜多輝昌委員

B班

- 管理運営委員会
- 出席委員会
- 親睦委員会
- プログラム委員会
- ニコニコ箱委員会
- 健康管理委員会
- 趣味の会委員会

杉垣輝樹委員長
吉村 始委員長
酒本將稔委員長
松村實昭委員長
松村裕玄委員長
中堀克己委員長
白井健雄委員長

C班

- 奉仕プロジェクト委員会
- 職業奉仕委員会
- 社会奉仕委員会
- 青少年奉仕委員会
- ローターアクト委員会
- 国際奉仕委員会
- 米山奨学会委員会
- ロータリー財団委員会
- 研修・規定委員会

牧浦 徹委員長
垣本喜己委員長
射場祥行委員長
木下庄司委員長
山本忠行委員長
上田麻子委員長
村野淳二委員長
平岡雄一郎委員長
吉川雅章委員長

ガバナー補佐アドレス・総評

米田常彦ガバナー補佐

ご報告ありがとうございました。特に、奉仕活動に関しまして、すばらしい活動をされておられるなど感じました。

お話の中で、やはり目につきましたのは、これからの増強の部分です。そこで、桜井RCの事例についてお話をさせていただきます。実は、桜井RCというのは、三、四年前には会員数8名となり存続の危機を迎え、実現はしませんでした。しかし、他クラブとの合併話もありました。しかし、そこから三、四名増やすことができました。この理由は、すばらしい活動を見て、入会したいと希望する方があったからです。グローバル補助金の事業は、今年度、地区の中で一番多いのではないかと思います。1500万円ぐらいの補助をもらっておられます。

資料によりますと、これはここ数年続いております。増強のうち2名は他地区のロータリーから移ってこられた方です。お一人は、大阪の富田林RCでガバナーが出たときの幹事長をなさっていた方であり、すばらしいロータリアンです。また、そのほかの2名の方もロータリークラブとライオンズクラブの経験者です。これらの方が、特に国際奉仕事業において、こんなことができるのかと魅力を感じて入会されました。

私の経験で申しますと、樫原RCは私が入会いたしました22年前は90名弱の会員数でしたが、そこからだんだん減ってきて、私が会長のときには45名程度になっておりました。これではいけないということで、会長年度から3年後ぐらいに会員増強委員長をお引き受けしたときに、非常に強引な増強をしました。その年に10人、次の年にも8人という増強でした。そうすると、やはり無理も出てまいります。

それに比べて桜井RCの場合は事業を通じて、「ああ、こんなにすばらしい事業をしたはるんや」ということで入会者がございました。すると、ここ一、二年でまた入会者が出てまいります。普通は12名ぐらいのクラブというと、存続の危機を迎えるクラブもあります。それに対し桜井RCは、内田リカコさんをはじめ、力強い女性メンバーも加わり、人数は少なくとも強いクラブになっていくのではないかなという予感がいたします。

先ほどのご報告を聞きながら、では来年はどのぐらいを目標にされるのかなと感じておりました。けれども、数だけではないと私は思います。ましてや大和高田RCの場合は80名の会員をお持ちで、県下では2番目に多いクラブということになります。昔は100名を超える会員がおられたという思いもあろうかと思えます。退会防止に力を入れながら、若いメンバーを入れていただきましたら、若いメンバーがさらに若いメンバーを呼んでいくのではないかと思います。

それと先ほど、地区では衛星クラブを持つことを奨励している点についてお話がございました。おっしゃいますように、大和高田RCでは、親子の会員様もおられますので必要はないと思います。ただ、福井RCでは、平野ガバナーのご子息と幹事長のご子息が今年12月、福井RCの衛星クラブを作ろうという動きが出ています。衛星クラブは8名からクラブとして認められ、本クラブの人数にも足されるクラブ内クラブだと言えます。こういった点は、ほかの地区に比べると2650地区は非常に遅れております。

県内のライオンズクラブさんの様子をお聞きますと、例会が月2回であったり会費が安かったりと入会の敷居が低いこともあり、会員を増やしておられるようです。ですので、大和高田RC様におかれましても、将来は衛星クラブについても検討するなど、工夫をしていただければと思います。

次に、公共イメージ委員会についてお話をいたします。今年度から、地区のガバナー賞の要項が変わりました。3部門に分かれたうち、第3部門は公共イメージ向上賞となっております。地区のホームページに活動報告を投稿していただければ、自動的に審査対象になります。ですので、公共イメージ委員会では、地区のホームページをより使っていただけたらと思います。また、その他2部門のガバナー賞につきましても、地区のホームページより報告していただきますようお願い申し上げます。

先ほどご報告のございました、桜についての活動をはじめ、これらのすばらしい活動は、増強にも公共イメージにも一体的に関わってくると思います。こういったすばらしい活動をクラブ内のホームページとともに、地区のホームページもご活用してご報告いただきますようお願いいたします。

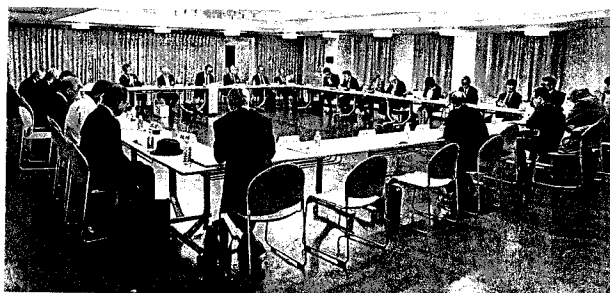
また、例会前に牧浦エレクトとも少し話をさせていただきましたが、米山奨学会につきましてもどうぞご協力をお願いいたします。大和高田RCからは普通寄付金を一人5000円、80名ですから40万円いただいております。ただ、年間の目標は一人2万4000円となっております。ご理解の程よろしく願いいたします。例会では次週、奨学生の卓話があるようですが、2019-21年度辺りを境に、奨学生の受け入れからも遠ざかっておられますので、クラブの国際奉仕に関するご関心も高めていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

それ以外につきましては全く申し上げることはございません。

閉会の言葉

杉垣輝樹副会長

米田ガバナー補佐、本日はありがとうございました。いろいろと実体験に基づき、他クラブの実例などを挙げていただきまして、クラブにとって、また各会員個人の活動にとっても参考になるお話を次から次にたくさんしていただきました。もう1時間ぐらいお話をお聞きしたいところですが、時間に限りがございますのが残念です。本日のお話は大変ヒントになると思いますので、各委員会において今後の活動に生かしていただきたいと思います。本日は皆様方どうもお疲れさまでした。



出席報告	会員 総数	出席 義務 会員数	義務 会員 出席数	義務 会員 欠席数	義務 会員 MU	出席 免除 会員数	免除 会員 出席数	免除 会員 MU	出席率
10月20日	80	55	51	4	0	25	17	0	94.44%
10月6日	80	55	45	10	1	25	18	0	87.67%
9月27日	80	55	33	22	1	25	8	0	66.67%

※食品ロスの削減に努めましょう。(10月6日の弁当残数は5個)